

《国語の基礎確認シート8》 作文の構想

※ 解答は、解答用紙に書きましょう。

一 田中さんは、カブトガニをしようかとする文章を書くために、博物館で取材しました。次のAからDまでは、取材した内容をまとめたカードです。

<p>A</p> <p>○カブトガニの生態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二億年も前から形が変わっていない。 ↓「生きた化石」、「生きている化石」とよばれる。 	<p>B</p> <p>○カブトガニの生息地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内海と九州北部の浜辺。 ・波がおだやかで、浅い海。 ※うめ立てなどにより、生息地が激減。
<p>C</p> <p>○カブトガニのえさ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴカイ（海底にいる。やわらかい。） ・アサリ、ハマグリ（からが固い。） ・ウニ（とげにおおわれている。） 	<p>D</p> <p>○カブトガニの環境対応能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何も食べなくても、二年くらい平気。 ・エラがぬれていれば、水の外でも一、二週間は平気。

田中さんは、次のしようか文を書きました。※①から④までは、段落の番号です。

- ① カブトガニは、「生きた化石」、「生きている化石」とよばれる海の生き物です。なぜ、このようによばれているのでしょうか。それは、カブトガニの形が二億年も前からほとんど変わっていないからです。二億年前といえば、恐竜がいたころです。ちなみに、恐竜は二億五千万年くらい前に誕生し、六千五百万年くらい前に絶滅したとされています。
- ② カブトガニのすごさは、環境に対応する能力の高さにあります。なんと二年もの間、何も食べなくても平気です。しかも、エラがぬれてさえいれば、水の外でも一、二週間は生きられます。
- ③ また、カブトガニは、いろいろなものを食べることができます。まずは、ゴカイ。海底にいるミミズのような生き物で、よく魚つりのエサとして使われます。次に、アサリやハマグリなどの貝。これらは、固いからをもっています。そして、時にはウニを食べることもあるそうです。よく知られているとおり、ウニは、無数のするどいとげにおおわれています。
- ④ このように、カブトガニは、底知れない力をもった生き物なのです。

- (1) 田中さんは、カブトガニのすごいと思うところを中心にまとめています。AからDまでの中から、田中さんが使わなかったカードを一つ選んで、その記号を書きましょう。
- (2) 田中さんのしようか文の中には、同じグループの山下さんからのアドバイスを受けて、書き加えた部分があります。山下さんのアドバイスは、次のとおりです。
「どれくらいなのか、数が分かりにくいので、別の物と比べるといいよ。」
田中さんが書き加えた部分がふくまれている段落はどれですか。①から④までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- (3) —線部「底知れない力」について具体的に示している段落を、①から④までの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。